

第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2012年11月23日

会場:名古屋市稲永スポーツセンター

■男子決勝

星城高等学校	3	25	第1セット	18	大同大大同高等学校	0
		25	第2セット	18		
		25	第3セット	18		
			第4セット			
			第5セット			

山崎 (2年)	武智 (2年)	先 発 メ ン バ ー	巽 (3年)	近藤 (2年)
山内 (3年)	神谷 (2年)		陣内 (2年)	山口 (2年)
中根 (2年)	石川 (2年)		水谷 (3年)	松脇 (2年)
川口 (2年)	北山 (1年)	リベロ	森光 (2年)	二村 (2年)

<戦評>

3年連続で同じ顔合わせとなった決勝戦は、星城高等学校が大同大学大同高等学校を下し、3年連続11回目の全国大会出場切符を手にした。

星城高校の攻撃の起点はサーブにあった。中根、武智、石川、山崎らが軒並み効果的なサーブで大同高校を苦しめた。サービスエースは各セット2本以上で、第2セットは実に5本に上った。ミスをも恐れぬ強打のサーブ、コースをねらった巧みなサーブは、たびたび観客をわかせた。

また、サーブレシーブは安定感があり、3セットを通じて相手に1本しかエースを許さなかった。このようなきっちりしたレシーブから、セッター中根がアタッカー陣へトスを供給した。第1セットは、序盤はサイドからの攻撃で確実に得点を奪い、中盤にさしかかるところからたびたび速攻を絡めるようになった。このトスワークで徐々に相手ブロッカーのマークを外していった。対照的に2セット目は、出だしからこれでもかと速攻を連発して主導権を握った。結局、星城高校のアタッカーがシャットアウトされたのは、3セットでわずかに1本だけであった。

終わってみると、星城高校はこの決勝戦まで対戦したチームに1セットも与えず、しかも全セット20点未満に抑えた。インターハイ「北信越かがやき総体」で全国優勝、「岐阜清流国体」でも主力メンバーで優勝という実力を十分に見せつけ、1月の全国大会での活躍が大いに期待される結果となった。

大同高校も、水谷、巽、山口らを軸にパンチ力のある攻撃を見せたが、リードしたのは3セット目の4-3から5-4にかけてだけであった。サイドアタッカーとトスのタイミングがもう少し合っていれば相手をおびやかすことができたかもしれない。

■作成者: 富田 崇

第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2012年11月23日

会場:名古屋市稲永スポーツセンター

■女子決勝

愛知県立豊丘高等学校	0	20	第1セット	25	3	人間環境大学岡崎学園高等学校
		17	第2セット	25		
		14	第3セット	25		
			第4セット			
			第5セット			

鈴木(那) (1年)	佐野 (2年)	先発メンバー	末代 (3年)	吉田 (1年)
高橋 (2年)	石黒 (1年)		石川 (2年)	種子田 (3年)
古林 (1年)	鈴木(萌) (2年)		落合 (3年)	大小田 (2年)
木村 (2年)	戸澤 (2年)	リベロ	田中 (3年)	都築 (2年)

<戦評>

第4シードの人間環境大学岡崎学園高等学校が、準決勝で第1シードの豊橋中央高等学校を破った勢いのまま、2年振りの栄冠をつかんだ。

最初の得点は末代のブロックポイント。そこから落合が、自身が前衛にいる間にアタックを3本決めた。続くローテーションで6連続得点。この間に末代がブロックで3点を挙げたことが大きかった。これで12-6となり、序盤からチームに勢いが出た。中盤はミスが続いて19-17まで迫られたが、20点目を取ったところに入ったピンチサーバー岩崎がいきなりサービスエースを奪うと、ここからセットポイントまで一気に走った(岩崎は24点目もサービスエースを奪った)。このセットは落合がアタックで8点、末代がブロックで5点取った。

第2セットは末代がアタックで爆発。13-11までに6本決めた。相手にマークされながらもセンターから前セミを打ち切る姿が印象的であった。このパターンはチームにとって大きな得点源になった。このセットは17-16までもつれたまま進んだが、18点目を取ってから入ったピンチサーバー市森がサービスエースを奪うと、そこから岡崎学園高校が4連続得点を奪った。終盤8点取る間に相手に1点しか与えない怒濤の展開であった。

最終セットは3連続得点を3回、5連続得点を1回奪うなど、手を付けられない状況だった。この試合は、セットを経るごとに強さを増し、スタメンだけでなく1年生の両ピンチサーバーもよい働きを見せ、まさに岡崎学園高校の横綱相撲であった。

一方、豊丘高等学校は、第2セットの序盤に5連続得点を奪って最大3点リードという場面もあったが、終始岡崎学園高校の高さに苦しんだ。ただ、若いチームにとっては、第3セットの4本のブロックポイントは今後につながるだろう。また、準決勝で椋山学園高等学校(昨年度優勝、今年度インターハイ出場)を破ったことも大きな収穫だったに違いない。

■作成者: 富田 崇

【訂正とお詫び】

人間環境大学岡崎学園高等学校の選手名の記載に誤りがありました。
訂正するとともにチームならびに関係者の皆様へご迷惑をお掛けしましたこととお詫びいたします。
愛知県バレーボール協会